

私立大学研究ブランディング事業
「エコ農業ブランディングによる発展的地域創成モデルの形成」
令和元年度研究中間報告

課題3 植物クリニックセンターの運営と作物の病害診断・防除・予防

担当者：相野 公孝・村上 二郎・眞山 滋志

■令和元年度（最終年度）の達成目標

診断依頼の受付と迅速な植物診断、病原菌の同定と防除指導を行い、関係機関との病害情報共有及び発信を行う。

■令和元年度（最終年度）の進捗状況（9月末時点）

植物クリニックセンターは、東京大学植物病院を中心とする全国的な植物病院構想の中で展開されている植物病院ネットワークの一つの拠点となり法政大学植物医科学センターをはじめ各植物防疫機関とも連携し、迅速で正確な診断を行えるようにした。

1) 病害の診断

4月からの診断件数は、タマネギ2件（①除草剤の薬害、②細菌性腐敗病の初期症状）、ナス6件（ナスすすかび病、ナス黒枯病_葉、ナス黒枯病_果実、ナスうどんこ病、オオタバコガ、ハスモンヨトウ）、ブドウ黒とう病、オクラ菌核病、キュウリ菌核病、アワジナルトオレンジ1件（現在診断中）、リンゴたんそ病、ミカンハモグリバエ（温州ミカン）、ハスモンヨトウ（サトイモ）、サビダニ（トマト）、イモコガ（サツマイモ）の17件となっている。診断結果及び適正な防除指導を行った。

2) 地域との連携

これまでも、兵庫県病害虫防除所とは診断ファイルの様式の統一や、情報の共有を行ってきたが、今年度、兵庫県立農林水産技術総合センター内に完成した病害虫高度診断・防除研究拠点との連携を開始した。また、南あわじ市野菜病害虫防除推進協議会を通して、南あわじ市、南淡路農業改良普及センター、淡路農業技術センター、あわじ島農業協同組合及び生産組合と病害虫発生の情報共有を行っており、さらに、タマネギ鱗片腐敗症の病原細菌の種類及び感染ルートの特定を地域と連携をはかりながら解明しつつある。

3) 人材の養成

今年度は、3回生6名、4回生6名、院生1名が植物病理学研究室に所属し、淡路地域の病害問題から研究テーマを選定した。①レタスビッグベイン病のアブラナ科利用による病害抑制、②キノコ廃菌床によるビッグベイン病の防除、③オルピディウム菌の生存確認と *Asaia* 菌を用いた感染阻害、④キノコ由来成分を用いた植物病害防除、⑤ *Botrytis* 属菌の QoI 剤耐性と耐性機構、⑥ *Phytophthora palmivora* の各種薬剤に対する耐性検定、⑦イネにおける赤かび病の感染リスク、⑧コムギから分離した赤かび病菌の多様性、⑨ヒカマの栽培方法とそれを用いた獣害防除等の研究を現在実施中である。

4) 情報発信

第7回植物保護シンポジウムを、特別講演とし「今後の植物保護の方向性について」、トピックスとして「雑草防除の現状と対策」を取り上げ7月25日に開催した。また、11月1日に植物病害診断研究会を開催する予定である。